

校長室だより

令和3年7月

30年程前、私が初めて学級担任を任されたクラスで発行した学級通信。その中身の大半は忘れてしまったけれど、はっきりと覚えている文があります。今よりも随分と肩に力の入った文でしたが、内容は「竹の節」についてでした。

要は「節目は大切だ」と書くために、いろいろなことを例えにしたと思います。元旦や4月の年度替わりには、気持ちも新たに様々な願いを抱くので、「その節目を大切にしよう」と書きました。今も節目を大切に思う気持ちは変わらず、気付けば4月に年度当初の抱負を持ってからは、早くも3ヶ月が過ぎました。さて、今も、その時の思いや願いを皆さんは大切に持ち続けていますか。

進路のしおりの巻頭言でも記しましたが、自分の興味関心のあることに取り組むのは、誰しも容易に出来ます。しかし、自分が苦手とする教科や分野になると、話は随分と違ってきます。確かに、やる気の起こらない、勉めて強いられる「勉強」は辛いものです。ただ、振り返って考えてみると、その辛さから身についたことがあるのも事実です。

もしも、「テストなんてなくなればいいのに」と考えている人がいるなら、4月当初に願った自身の夢を叶えるために、目の前にある今できることを、前向きに精一杯頑張ってみませんか。1学期末考査に全力で取り組む皆さんを応援しています。